

国際共同研究事業 令和 5(2023)年度実施報告書

令和 6 年 4 月 8 日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

[日本側代表者所属機関・部局]

国立研究開発法人国立成育医療研究センター 社会医学研究部

[職・氏名]

部長 森崎菜穂

[課題番号]

JPJSJRP 20211709

1. プログラム名 英国との国際共同研究プログラム(JRP-LEAD with UKRI)

2. 研究課題名

(和文) 新型コロナウイルス流行下における日英の親子の精神的健康とニーズの推移分析から学ぶ

(英文) Learning from the trajectories of mental health challenges for children, young people and parents across Japan and UK over the course of the COVID-19 pandemic: a mixed method analysis

3. 共同研究実施期間

令和 3 年 12 月 1 日 ~ 令和 6 年 11 月 30 日 (3 年 0 ヶ月)

4. 相手国側代表者(所属機関名・職名・氏名【全て英文】)

University of Oxford, Post-doctoral researcher, Simona Skripkauskaite

5. 当該年度実施状況

- ・当該年度実施計画書の「当該年度実施計画の概要」の内容と対応させつつ、当該年度の実施状況を簡潔に記載してください。再委託又は共同実施を行った場合は、それぞれの実施状況がわかるように記載してください。
- ・当該年度又は前年度(複数年契約を締結し繰越を行った場合)の各費目における増減が研究経費総額の 50% (この額が 300 万円を超えない場合は 300 万円)に相当する額を超えた場合は、その理由と費目の内訳を変更しても計画の遂行に支障がないと考えた理由を記載してください。

2023 年度は、ワークストリーム1, 2, 3を実施した。

英国チームとは 2022 年 4 月以降、進捗の共有や、ポスドクによる研究成果発表を行う会議を月1回 90 分で行っており、令和5年度も継続した。

また、2022 年 9 月からは、ワークストリーム3について、両国の研究者のみならず業務委託先である両国のNPO のスタッフも交えて月1回 60 分の情報交換会を行い、両国における進捗および本調査研究の進め方について密な情報交換を行った。

さらに、2023 年 3 月 29 日には、ティーン探求者として本研究事業に参加している若者(英国8名、日本16名)が情報交換を行う75分の会議を行った。

WORKSTREAM 1.

本ワークストリームでは、研究開始前までに集めたデータをもとに、こどもたちのメンタルヘルスの経時的推移、およびそれにコロナ禍の社会的制限がどのように影響するのかを調べる。

2023 年度は、日英で共通で取得している SDQ のデータを用いて、下位尺度の相関の程度が日英で異なるのかを調べる分析を共同で行った。また本結果をもとに、共同執筆の英語原著論文原稿の作成に取り掛かりはじめた。

また、2023 年 12 月にオランダにて、英国側の研究グループが主催する 3 日間のワークショップ「Lorentz Center workshop: COVID-19 Supporting Parents, Adolescents, and Children during Epidemics」に参加し、本プロジェクトの英国側の研究グループ、および 2020 年にこどもおよびその保護者に対して心理尺度を用いた調査を行った欧州複数国の研究者らと情報交換および意見交換を行った。

WORKSTREAM 2.

本ワークストリームでは、日英で 3 回の調査を実施し、こどもたちのメンタルヘルスの経時的推移がその社会的背景によりどのように異なるのかを調べる。

2022 年度の春と秋に実施した 2 回の調査に続き、2023 年度春の調査を実施した。主要評価項目は両国とも、Strengths and Difficulties Questionnaire (SDQ)、Patient Health Questionnaire 9 modified for adolescents (PHQ-A)、Depression, Anxiety, Stress Scale (DASS-21) である。

また、2023 年秋にはこどもの声を聞くことについての保護者の意識などの一部項目を含めた継続調査を実施した。更に、ワークストリーム 3 に参加するこどもが考案した調査項目を含めた継続調査を 2024 年春に実施するように研究計画を変更し、調査準備を行った。

日本側の調査結果は、日本児童青年精神医学会総会にて 3 件の学会発表を行った(演題名: こどものインターネット利用とこどもの情緒、行動との関連についての検討.; こどもの孤独感と自傷行為との関連に関する縦断研究.; レジリエンスと思春期やせとの関連: 全国縦断調査の結果より.)。

WORKSTREAM 3.

本ワークストリームでは、WORKSTREAM1、WORKSTREAM2 で得られた結果を踏まえて、「パンデミックでの経験を振り返り、社会がこどもたちのために出来たらよかったこと」をこどもたちが提案することをサポートする。

2023 年度は 12 月にこどもおよび若者のリクルートを行い、3 月にトレーニングセッションを提供した。なお、英国においても 2023 年度にこどもおよび若者のリクルートおよびトレーニングセッションの提供が平行で終了している。また、上記の実施および進捗管理のために、2023 年 9 月からは英国の研究グループおよび業務委託先の NGO と活動における密な連携をとり、ワークショップへのこどものリクルート方法、ワークショップの運営方法、こどもたちによる提言のまとめ方、の方法論について、意見交換を月 1 回定期的に行った。

上記の実施に際し、研究開始当初はこどもおよび若者による提案の作成を補助する NGO は UK における Leaders Unlocked の 1 法人のみの予定であったが、日本のこどもおよび若者による提言・

提案の作成を推進するために、日本側においてもこどもおよび若者へのリーダーシップトレーニングを行っている NPO 法人 Free the Children Japan, こどもおよび若者による政策提言作成支援を行っている一般社団法人 Everybeing と連携し、こどものトレーニングの外注を行った。

7. 研究発表(当該年度において本共同研究の一環として本事業による支援を受けたことを明示して発表したものについて記載してください)

[雑誌論文] 計(0)件 うち査読付論文 計(0)件

通番	共著の有無 ^{*1}	著者名、論文標題等 ^{*2}
1		

[学会発表] 計(3)件 うち招待講演 計(0)件

通番	共著の有無 ^{*1}	発表者名、発表標題等 ^{*2}
1	無	須山 聡、西木 百合子、福屋 吉史、山脇 かおり、小川 しおり、石塚 一枝. こどものインターネット利用とこどもの情緒、行動との関連についての検討. 日本児童青年精神医学会総会、2023、国内
2	無	福屋 吉史、石塚 一枝、山脇 かおり、須山 聡、西木 百合子. こどもの孤独感と自傷行為との関連に関する縦断研究. 日本児童青年精神医学会総会、2023、国内
3	無	石塚一枝、山脇 かおり、西木 百合子、金田 文香、須山 聡、福屋 吉史. レジリエンスと思春期やせとの関連: 全国縦断調査の結果より. 日本児童青年精神医学会総会、2023、国内

[図 書] 計(0)件

通番	共著の有無 ^{*1}	著者名、著書名等 ^{*2}
1		

*1 相手国側参加者との共著(共同発表)がある場合は○と記入。

*2 当該発表等を同定するに十分な情報を記載すること。例えば学術論文の場合は、著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年(西暦)、最初と最後の頁、掲載論文の DOI、学会発表の場合は発表者名、発表標題、学会等名、発表年(西暦)、発表地(国名、国外開催の場合のみ)、図書の場合は著者名、著書名、出版社名、発行年(西暦)、総ページ数、ISBN、など(順番は入れ替わってもよい)。相手国側参加者との共著となる場合は、著者名が複数であっても省略せず、その氏名を記入し下線を付すこと。

*3 足りない場合は適宜行を追加すること。

8. 本事業による産業財産権の出願・取得状況(当該年度に出願又は取得したもの)

[出 願] 計(0)件

通番	産業財産権の名称、発明者、権利者、産業財産権の種類、番号、出願年、国内・外国の別
1	

[取 得] 計(0)件

通番	産業財産権の名称、発明者、権利者、産業財産権の種類、番号、取得年、国内・外国の別
2	

* 必要に応じて、欄を追加してください。